

教職員			7月	12月	保護者の学校評価アンケート	7月肯定的意見	12月肯定的意見	児童アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見		
① 確かな学力の定着	1	【主体的・対話的で深い学びとなる授業作り】 児童は学習したことを活用する力が身につけている。 (テスト [研究]水上)	記述力診断テストで全国(または県)平均を超えた児童の割合 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	A	A	1	お子さんは、授業内容がおおむね理解できている様子である。	100	100				
	2	ICT機器の活用に努めた。 ([授業担当 4名] → 振り返り [GIGA] 寺下)	授業でのICT機器(パソコン・大型モニターなど)の活用 A 週3時間以上 B 週2時間以上 C 週1時間以上 D 週1時間以下	A 3名 B 1名	A 3名 B 1名								
	3	【基盤作り】 児童は基礎的な学力が身に付いている。 (テスト [研究]水上)	学期末漢字・計算テストの得点が、共に90点以上の児童の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A	A	2	お子さんは、読み書き・計算などの基礎学力がおおむね身につけてきている。	100	100	1	習った計算や漢字の読み書きができる。	93.3	100
	4	児童は本に親しみ読書する習慣が身につけている。 (読書記録、観察 [図書]池岡)	多読の目標を達成している児童の割合 A90%以上 B80%以上 C60%以上 D60%未満	B	B	3	お子さんは、自分から進んで宿題や家庭学習をしている。	86.7	93.3	2	自分から進んで宿題をしている。	80	93.3
						4	お子さんは、週末本を読んでいる。	80	93.3	3	家でもたくさん本を読んでいる。	66.7	60
	5	【体制作り】 学力向上プランの実現に向けた取り組みができた。 ([授業担当 4名] → 振り返り [研究]水上)	授業での教師の観察記録の割合 A 75%以上 B 60%以上 C 45%以上 D 45%未満	A 2名 B 2名	A 3名 B 1名								

7月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)	12月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)
<p>◇学期末漢字・計算テストは全ての児童が90点以上であった。単元末ふりかえりで学習に対して主体的に取り組んだ書きぶりをしていた児童が78%で、生活アンケートで「進んで学習に取り組むことができた」と回答した児童が66.7%であった。児童の授業に望む姿から、主体的に自ら学ぼうとする姿勢が見られ、児童自身もそれを実感しているように感じる。また、児童に自己決定や学習方法の選択場面を与え、振り返らせるという取組を全ての授業者が行った結果、児童の学習に対する主体性は向上している。残りの3分の1の児童も進んで学ぶことができたという実感を持てるようにしていく必要がある。 →主体的に学ぶ具体的な姿を児童と共有し、できている部分を認め、フィードバックする。</p> <p>◇ICTを活用した学びは概ねできている。しかし主要教科においてはモニター等の機器を使うことが標準的な授業となりつつある現在、全教師がA評価となるように取組を進めていく必要がある。 →活用回数が少ない教師と個別相談・指導の機会を設定する。</p> <p>◇週末読書の取り組みを肯定的に捉える保護者の意見が見られたが、学校での朝読書、家庭での週末読書以外で、児童が自発的に読書に親しむ姿が見られない。 →読書時間と学力は相関関係があると、学力調査の分析からも言われている。ゲームや動画など画面の視聴時間を減らし、1日5～10分でも家で読む機会を増やせるよう、本の持ち帰りを推進していきたい。</p>	<p>◇学期末漢字・計算テストは全ての児童が90点以上であった。12月に行われた5年生の評価問題の結果からも学習内容の定着が見られた。単元末ふりかえりで学習に対して主体的に取り組んだ書きぶりをしていた児童が87%で、生活アンケートで「進んで学習に取り組むことができた」と回答した児童が80%であった。どちらも7月から数値が向上しており、主体的に自ら学ぼうとする姿勢や学ぶ力が児童に身に付いている。9月から教員間での授業の相互参観を行い、実践の共有・検討を図っている。児童も他学年の授業を参観し、どのように学んでいけばよいかを確認することができた。 →本時や単元を通して目指す具体的な姿を児童と共有を図った上で、学びを委ねていく必要がある。</p> <p>◇ICTの活用は前期と変わらず、全教師がA評価とはならなかった。 →活用回数が少ない教師と引き続き個別相談・指導の機会を設定する。</p> <p>◇学校では朝読書や週末読書に継続して取り組んでいるものの、読書内容を見ると、図鑑や漫画が中心であったり、学年相当の本に親しめていない児童も見られるなど個人差が見られる。また、語彙力の面に課題があり、家庭を含めて読書習慣が十分に定着していない傾向がある。 →市民図書館や学校司書と連携し、学年相当のおすすめ図書を定期的に貸し出すとともに、図書館だよりや委員会活動を通して読書意欲を高め、語彙力の向上と読書習慣の定着を図っていく。</p>

教職員			7月	12月	保護者の学校評価アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見	児童アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見	
② 豊かな心の育成	6	【人間力の育成】 児童にあいさつの習慣が身につくように指導をしている。 ([教諭 5名]→振り返り[生徒指導]水上)	わかやまあいさつ名人の指導をしている A よくできている B できている C あまりできていない D できていない	A 4名 C 1名	A 5名	5	お子さんは、あいさつや返事などの基本的な生活習慣が身につけている。	100	100	4	元気よくあいさつをしている。	100	100
	7	【道徳教育・人権教育の充実】 いじめのない学級(学校)づくりができた。 (アンケート、観察 [道徳]寺下)	いじめの有無と学校が楽しいと答えた児童の割合 A いじめ0で100% B いじめ0で80%以上 C いじめ0で80%未満 D いじめあり	A	A	6	お子さんは、学校生活を楽しみにしている。	100	100	5	学校へ行くのが楽しみだ。	100	100
										6	友だちとなかよくしている。	100	100
	8	【縦割り班活動の充実】 他学年の関わりを大切にされた縦割り班活動を推進している。 ([学担 3名]→振り返り[児童会]水上)	縦割り班活動を行う際に事前・事後の指導をしている A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 3名	A 3名					7	縦割り班活動(行事・掃除・給食当番)を、協力して行っている。	100	100

7月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)	12月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)
◇全ての項目で肯定的な回答が100%であった。少人数の良さを生かしたきめ細やかな生徒指導や、自己肯定感を育むような活動を多く取り入れている成果だと考えられる。児童会が中心となり企画・運営した、昼休みの全校遊びやバースデー会などの活動が活発に行われ、全校の絆づくりの一役を担っていた。学校生活や行事の中でも児童に委ねる場面を設定することで、児童の自己有用感や達成感の向上につながっている。	◇後期も全ての項目で肯定的な回答が100%であった。児童会が主体となった行事もさらに充実し、自分たちでよりよい学校にしていこうとする行動が、高学年を中心によく見られる。 →来年度もこの姿を継続できるような指導を心がけていく。生活目標と連動した児童会の取り組みやイベントを企画し、下級生も巻き込んで全校で学校を良くしていこうとする意識を育てたい。

教職員			7月	12月	保護者の学校評価アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見	児童アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見	
③ 健やかな体と心の育成	9	【健やかな体と心の育成】 児童は規則正しい生活習慣（早寝早起き朝ご飯）が身に付いている。 (アンケート、観察 [保健]毛利)	正しい生活習慣が身に付いている児童の割合 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	B	7	お子さんは、起床や身じたくなど、自分のことは自分ですることができます。	100	100	8	早寝をしている。(1・2年21:00、3・4年21:30、5・6年22:00)	86.7	86.7
										9	早起きをしている。(6:30までに)	93.3	86.7
										8	お子さんは、好き嫌いせずに食事をとっている。	86.7	93.3
										10	朝ご飯を毎日食べている。	100	100
										11	家で好ききらいをしないで食べている。	66.7	73.3
	10	【たくましい体作り】 児童は学校生活において体力が向上している。 (アンケート [体育]徳成)	学校生活において体力が向上したと答えた児童の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	A	9	お子さんは、体を動かすことが好きである。	100	100	12	休み時間に体を動かして遊んでいる。	93.3	86.7
										13	体育的行事(運動会・マラソン・縄跳び)に向けて進んで取り組んでいる。	100	93.3
									9	お子さんは、学校のきまり、交通ルールなど守ることができる。	100	100	
									10	学校は、お子さんの安全と健康を守るために努力している。	100	100	

7月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)	12月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)
<p>◇早寝早起きに関しては、生活ふり返り週間の期間中は意識してできているが、普段の生活ではあと一步の児童が多い。好き嫌いに関しては、低学年で否定的回答をしている児童が多い一方で、保護者は肯定的回答をしていることから学校の多様な食材を使った給食では好き嫌いが現れやすいものと考えられる。</p> <p>→早寝早起きや好き嫌いなどの生活習慣は、家庭が担う部分が大きく、保健だよりや保護者懇談などで継続して働きかけていくようにする。</p> <p>◇体力について、保護者と児童の評価は肯定的である。昼休みには、全校遊びが企画されることが多く、体育館などでよく体を動かす姿が見られた。</p> <p>→怪我で体を動かすことができない児童には、上半身を動かすリラックス法なども紹介し、引き続き全校遊び等で体を動かす機会を増やしていく。また、2学期からは仮設グラウンドも利用できるので、マラソン大会に向けて、体力向上をはかりたい。</p> <p>→見守り隊の方を活用した、徒歩による集団登下校も検討したい。</p>	<p>◇早起きについて、児童の評価がやや下がった。また、好き嫌いについては、保護者・児童ともに評価が上がった。2学期は委員会で早寝早起きの発表をしたり、生活ふり返り週間中も毎日提出と個別指導を行ったりしたが、昨年より寒さの厳しい日が多かったことから、早起きが難しかったと考えられる。好き嫌いでは、給食で苦手なものを完食できる日が増えたことが結果に繋がったと考えられる。</p> <p>→3学期は進級に向けて、新しい気持ちで生活習慣を確立できるよう学年に応じた指導を行いたい。また、春休み中も元気カレンダーを行い、生活リズムが崩れないよう家庭と協力したい。好き嫌いに関しては、調理員さんや保護者へ感謝の気持ちを表せるよう、「ありがとう」の取組を行う予定。</p> <p>◇体力向上について、児童の評価がやや下がった。2学期は行事が多く、児童の中ではあまり体を動かせていないという意識をもっているように思えた。昼休みに少しでも体を動かせるように、サッカーゴールやストラックアウトを体育館に設置したり、誰でも跳べるように学年に応じた縄跳びカードに変更した。</p> <p>→仮設グラウンドが完成したので、昼休みに使用できるように工夫し、いつでも体を動かせる取組を紹介していきたい。また、冬場のスポーツとして卓球台を体育館に設置することで、運動量の増加を図る。</p>

教職員		7月	12月	保護者の学校評価アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見	児童アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見
④家庭・地域・関係機関との連携	11	地域資源(人材・施設・歴史・自然)を活用した。 ([授業担当 4名]→振り返り [教務] 寺下)	A 3名 C 1名	A 4名							
	12	ホームページや便りなどで、保護者に対して積極的に情報を提供し、理解を得るように努めている。 (学級便り、HP等 [涉外] 政田)	A	A	11	学校の教育目標について、理解することができる。(教育目標については、学校ホームページから確認できます。)	100	100			
	13	学校での様子・事故等、家庭との連絡を密にしている。([学担・養護教諭 4名]) ・連絡帳での記載 ・欠席1日目の家庭訪問や電話連絡 ・児童のけがやトラブル等についてその日のうちに連絡 ・保護者からの相談等に迅速に対応 ・管理職への報告	A 4名	A 4名	12	学校は、学校の様子を家庭や地域に知らせるように努力している。	100	100			
					13	学校は、事故等の発生に対して適切な連絡や対応ができるよう努力している。	100	100			

7月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)	12月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)
<p>◇地域資源の活用についてばらつきがみられたが、担当教科の違いが大きい理由として考えられる。 →その教科をもつ教師に任せるだけでなく、他の教員と地域資源に関する情報を共有したり一緒に考えたりする機会を設定する。</p> <p>◇保護者への情報提供や連絡については、概ね良い結果が見られた。日頃からHPや各種お便りで教育活動の様子をきめ細やかに伝えたり、家庭への連絡を密に行ったりしている成果だと考えられる。</p>	<p>◇地域資源の活用については職員室での情報共有等により改善が見られた。 →引き続き、地域資源に関する情報を共有したり一緒に考えたりする機会を設定する。</p> <p>◇情報発信については、すべての項目において100%肯定的な回答が得られ、本校の教育活動や学校運営が、保護者や地域の方々から高く評価されていることが分かった。特に、ホームページの定期的な更新や、学級便り・保健だより・給食だよりなどを通して、担当ごとに多角的に学校生活の様子や児童の実態を発信してきたことが、学校への理解と信頼につながっていると考えられる。 →より分かりやすく丁寧な情報共有に努め、学校・家庭・地域が連携した教育活動を推進していきたい。</p>

教職員			7月	12月	保護者の学校評価アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見	児童アンケート		7月肯定的意見	12月肯定的意見
⑤ 組織的な学校づくりと働き方改革	14	全児童を全教職員で育てるという意識を持ち、児童に接している。([全員 7名]→振り返り[教頭])	A 7名	A 7名								
	15	ワークライフバランスに留意して働いている。([全員 7名]→振り返り[教頭])	A 4名 B 3名	A 6名 B 1名								

7月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)	12月の結果と分析(◇)、今後に向けて(→)
<p>◇児童への接し方では、教職員全員がAと回答している。 →極小規模校の強みを生かし、今後も継続的に取り組んでいきたい。</p> <p>◇ワークライフバランスでは、教職員全員が肯定的に回答している。充実した人員が配置され、放課後の余白時間が創出されている点と、4月や運動会・指導主事訪問の繁忙期を除けば、退校時間を意識した働き方が定着している。 →今後も計画的に業務にあたっていけるよう、時間外勤務時間を見える化し、校務を分業するなど働き方改革を進めていきたい。</p>	<p>◇児童への接し方では、7月に引き続き、教職員全員がAと回答している。教職員間の連携と共通理解が安定して定着していることがうかがえる。</p> <p>◇ワークライフバランスについては、肯定的回答が増加し、働き方改善への意識や取組の成果が表れていると考えられる。退勤時刻を意識し、業務を計画的に進め、適切な時間で切り上げて退勤する教職員の姿が増えてきている。時間を意識した働き方が定着しつつあり、不要な残業を控え、効率的に業務に取り組もうとする意識の向上が見られる。 →今後も、組織的な協力体制を大切にしながら、業務の効率化や負担軽減を進め、より働きやすい職場環境づくりに努めていきたい。</p>